

# 第1回強化委員会議事録

- 1 出席者 委員長 大野 直志（東北：青森商業）  
班目真紀夫（東北：東白農商）  
伊藤栄一郎（関東：昭和第一学園）  
山本 宏恒（関東：作新学院）  
百々 敦史（東海：朝明）  
徳地 末広（近畿：榛生昇陽）  
堀 芳彰（中四国：石田）

強化担当常任理事 上野 孝（近畿：和歌山北）

- 2 日程および会場  
平成19年4月14日（土）13:00～17:00  
会場

【※執行部会議 9:00～ 常任理事会 15日（日）13:00～ 委員会から報告・提案】

## 3 議 事

委員長あいさつ

《報告確認事項》

- （1）平成19年・20年度強化委員メンバーおよび仕事内容の確認について
- （2）高体連事業とJCFジュニア選手強化事業について
- （3）その他

- ① 全プロ選手権（5月）女子ケイリン普及実施案。

選抜500mTT優勝者に参加依頼あり。

- ② JOCカップ出場とインターハイ

「JOCカップでJCFから依頼されている事項」

全国の優秀な競技者は男女ともJOCカップに出場してもらいたい。昨年までは上位入賞者がジュニア世界選に選考された場合、インターハイと比べてジュニア世界選を選んでもらいたい要望のもとに動いていましたが、大会開催の意味からも上位で選ばれた人は世界選に行って活躍してもらいたい。しかし、インターハイを目指している選手がJOCカップに出場しない場合があり、唯一のジュニア公認のトラック大会を開催する意義にかけるので、07年からはJOC大会に出場して、世界選手権に選ばれてインターハイ出場を選んでも許容（ペナルティーを課さない）するので、JOCカップになるべく多くの選手が出場してもらいたい。

- ③指導者育成事業（JOCカップ）

監督会議後、ジュニア指導者に対し講習を行う予定。それ以外にも、機会を見つけて実施できるように要望。

※ 強化委員会からの連絡、JCFの決定事項等は高体連ホームページにてアップします。

《議 題》

- (1) 平成 19 年度活動目標および活動内容について
- (2) 平成 19 年度高体連事業について
- (3) 平成 19 年度 J C F 強化委員会ジュニア育成部会支援コーチの推薦ならびに J C F ジュニア選手強化事業について
- (4) 委員会内役割分担について
- (5) 強化委員の追加・増員について
- (6) 委員間の連絡・決定および承認・周知徹底方法について
- (7) 全国常任理事会報告ならびに提案事項について

《連絡事項》

- (1) 次回委員会について開催時期と場所
- (2) 委員会旅費並びに経費等の支払方法について
- (3) その他

《報告確認事項》

(1) 平成 19 年度強化委員メンバーおよび仕事内容の確認について

①自己紹介各委員（プロフィール資料作成⇒委員間共有）

（全国各地で活動する幅広い層の競技者と指導者の立場に立っての考え方や発言）

《企画内容は委員間の意志疎通により情報交換・相互理解を深め、統一見解に限りなく近づける》

(2) 高体連事業と J C F ジュニア選手強化事業との関係について（ご理解を深めて頂きたい事）

事業区分	事業計画	経費等	選手スタッフ	備考
高体連選手強化事業（高体連強化委員会が企画した事業）例．18年度 チョンジュMBC ステージロード*	試合の参加・渡航計画を <u>決められる</u>	自己負担並びに高体連補助	独自に選考・人選 <u>できる</u>	事業予算付けが無い為、実施には難しい一面もあるが、高体連独自予算確保が進行すれば事業展開しやすい。
高体連代表選手派遣事業 TR；全アマ・日韓・チーム対抗 RR：ツールドとうほく、おきなわ・	派遣についての有無は <u>決められる</u>	自己負担並びに高体連補助	独自に選考・人選 <u>できる</u>	参加経費のみ負担で参加しやすいが、それでも自己負担は強いられる。状況により混成最強チーム・単独チーム可
J C F ジュニア選手強化事業（J C F で高体連からの要望、他の団体・事業との調整により企画）	ジュニア単独で企画と連動する部分	自己負担金 1/3 は必要	推薦は <u>できない</u>	選手は原則指定選手からスタッフは支援コーチを含むJCFの役職等が必要

①高体連では独自の選手強化事業予算はもっておらず、J C F に依存してきた。J C F から高体連に対しての補助は現在、全国ブロック合宿と全国選抜大会のみである。

②海外遠征等の多くはJ C F ジュニア対策事業の一環として参加させてきた。その中で平成 18 年度初めて、高体連事業として自己負担ながらチョンジュMBC ステージへ参加した。

③ J C F ジュニア選手強化事業

J C F からはカテゴリー（ジュニア）の育成以外には補助が出せない説明を受けている。これは J C F 組織・システムの問題であり、より多くの理事を輩出して改革する以外方法はない。

（J C F 側からの説明）

一加盟団体だけに補助はできない。（51加盟団体）しかし、ジュニア（大学生ジュニア・実業団ジュニアを含む）としては対策を考える。しかし、J C F 内担当者・担当部署が不在であった。プロ側から出している出向職員は当然、エリートプロの事を第一に考えその他、ロード・女子エリート・マウンテン・室内競技を1名で、納得のいく円滑な処理をすることは不可能。（派遣文書～主催者とのやりとり・旅行会社その他もろもろ）提案・作業がポジションとして、2005年 ジュニア育成部会・支援コーチ制度が創設された。

（J C F への要望）

高体連は日本における自転車競技発展させる選手の入口として、ゼロから乗り方を教え、多くの競技者と指導者を抱える団体として、高いレベルの選手をこれからも輩出する為にも十分な資金援助や優遇を求めたい。

（原因と考察）

高体連を含むジュニア選手・指導者の育成が急務で大切であることは J C F 側も理解を示している。しかし、J C F 事業費の多くは競輪界から流れており、実務担当である職員も出向させていることから競輪選手を中心としたエリートプロを厚遇せざる得ない背景が存在する。

選手の為の計画的な無理の無い事業を展開する為には、人と金を出すか、JCFに頼らない自己財源を確保することが必要である。

④ジュニアが使用可能な事業資金（平成18年度）

- ・JOC（日本オリンピック委員会）からの選手育成補助金

各競技団体に配分されている選手強化補助金であり、エリート男女ロード・ジュニアで活用している。

（海外研修合宿）シドニーユース・ラビティビ・チョンジュMBC

上記の大会は招致大会であり、渡航費と現地経費だけで参加可能。ただし、前泊・後泊・トレーニングウェア・レースジャージ・食事等は自己負担金となる。

（国内合宿）全国ジュニア合宿

修善寺（ほぼ日本の中央）で行えば、3泊の宿泊費・交通費を払っても自己負担金3万程度で事業実施できる。

◎ 補助金の振り込み完了まで（JCFが申請，JCFへ振り込み）までの立替分負担をJCFと年度ごとの交渉事項である。

⑤選手・スタッフ選考

- ・高体連代表選手・スタッフ（監督・コーチ・メカ等）

高体連独自（委任されている強化委員会決定）に決めることが出来る。選考方法や事前連絡はHP発表や大会前等に連絡することが望ましい。

例・指定大会で選考

- ・複数大会で選考

- ・団体選考（団体種目若しくは所属チーム）

- ・JCFジュニア選手・スタッフ等

選手は原則、指定選手から派遣される。（例外・好記録、群を抜いた選手）

指定選手 ⇒ 高体連強化委員会素案作成（分かり得るだけのジュニアは含める）

⇒ JCFジュニア部会審査（大学生ジュニア・実業団ジュニア等加味）

⇒ JCF強化委員会 ⇒ JCF強化本部会（正式決定）

スタッフ ⇒ JCF強化スタッフ（ジュニア部会・支援コーチを含む）

◎選手・スタッフの人選は情報開示・HP公開等、時代の流れが進み、公開される選手・スタッフの人選は根拠が必要。

◎JCFでは同時に指導者育成を実施しており、JCFから派遣をする上で公認コーチ・指導員を無視できない。

《議題》

(1) 平成19年度活動目標および活動内容について

(目標) 世界に通用するジュニア選手の育成及び初心者からの指導方法・体系の確立に努め高体連全体のレベルアップにつなげることを目標とする。

(活動内容) 上記目標を達成するために以下の活動を行う。

- ① 選手・指導者の育成  
指導理論の研究, 委員の技量アップを図り, 自転車競技指導書(2004.3月発行)の充実および指導体系の確立を目指す。
- ② 専門委員会同士との連携  
総務委員会および技術審判委員会と密接な連携・情報交換を密にし, 高体連事業・派遣事業の十分な検討をして有益な選手強化事業を展開する。
- ③ 事業への積極的参加  
高体連事業・派遣事業に関しては積極的に参加をし, 事業の成功とともに高体連への還元を目指す。
- ④ J C F との連携  
J C F 強化委員会・ジュニア育成部会との連携・情報交換を密にし, 要請があれば公正な選考により選手の推薦を行う。  
●チーフディレクターのジュニア選手への技術指導、指導者講習会などが計画されている。
- ⑤ 情報提供  
選考基準やレース結果・報告等の有益情報を共有し, ホームページや高体連報告書に発表することにより一層の普及と発展を目指す。

(2) 平成19年度高体連事業について

①高体連主催事業

ア ツールド・ラビティビへの高体連代表チーム派遣について

○昨年度、チョンジュMBCステージ・レースへ高体連選抜チームを派遣した。

参加選手アンケート・参加スタッフを総合的に考えると、2チームの出場は有益であった。

派遣期間について 平成19年6月12日 出発 6月23日(土) 帰国の日程から

・ブロック大会や全日本ロードとのバッティングが分かっている大会派遣の企画は好ましくない  
のではないかと。インターハイロードへの救済措置はあっても団体種目・トラック種目はない。  
(18年度強化委員会)

【派遣期間】平成19年7月14日(土)～25日(水) ※フライトの関係で変更あり

○高体連海外遠征補助金

(昨年度)

チョンジュ・ラビティビ・イタリア遠征・全日本チーム・シドニーユース(合宿含)  
日韓対抗

○事務処理分担

総務委員(強化担当)・・・1 技術(強化担当)・・・1 強化委員2名

○エントリー締め切り

6月中旬 JCFへの承認・届出(派遣報告) 5月中旬

チョンジュがないのなら、ラビティビ2チーム参加を、実施したい。

高体連チームは特に、できるだけ2年生を入れていきたい。

ツールド・ラビティビに高体連選抜チームをジュニアチームとともに派遣する。

常任理事会審議事項 → 承認

イ 全国ブロック合宿

全国6ブロックにて開催する。別の事業でも良いが平成17年度全国理事会にて継続を決議されている。「普及」名目で。

昨年、一昨年と補助金振込と報告書等提出について意志の疎通が図れずにブロック担当者に多大な迷惑をかけたため留意が必要。

ブロック合宿担当 ⇒ 要項の作成・補助金の分配(登録人数割りによる)

予算・計画・決算・報告書の集約を行う。

報告書式を作成し円滑に作業が進められるようにしたい。

## ②共催事業

### ア 日韓学生対抗自転車競技大会（学連共催）

開催日：10月31日（水）

開催場所：韓国京畿道光明市 光明DOME競輪場

大会期間：10月29日（月）出国～11月2日（金）帰国

※昨年からの変更点

（選手団）人数の変更 監督・コーチ・選手4，女子は混合

⇒ 経費の関係から若干減少させる。学連との協議

（種目）実施する団体種目をどちらかにする。高体連チームはチームスプリントでと要望。

参加人数は6にならないか、要望する。自己負担金があっても仕方なし。

・3月に会議は開催されたが（総務委員長）出席，要項作りをはじめ高体連側担当者が未定，例年山口理事長が代行しておこなっていた。（積極的に参加すれば，こちらの言い分は通ると思います）

・団体種目によって，個人種目が短距離系になるか中距離系が大きく変わります。

チームスプリントの場合，たぶん333バンクと予想されますので，編成方法を考える必要があります。（昨年はインターハイ優勝チーム派遣，個人レベルでも入賞者）

・例年、全国総体優勝選手をベースに強化指定選手とのバランス、長距離・短距離のバランスを考えながら選考。

・選考方法について

日韓対抗、全日本チーム対抗と別々のチームを選考しなければならない。日韓対抗は全国総体優勝チーム、優勝者から選考する。

全日本チーム対抗は全国総体優勝および上位入賞チームから選考する。

**平成19年度日韓学生対抗自転車競技大会へ選手団を派遣する。**

### イ 第5回ジュニアロード大会（長野飯山）

（経緯）

第4回まで5月に修善寺カップロードレースとして（CSC）5kmサーキットで開催された。時間の関係と参加者の少ないことからジュニアの部が閉鎖されクリテリウム移行へととなった。

5km×16周 80km と距離は長いがカテゴリー・ジュニアとしてのレースが現在，余りに少ない事や両連盟の選手強化・発展を目的として参加をしやすくする為，共催事業として開催された。実質の運営は学連が行い，選手の大部分を抱える高体連は選手参加が中心であった。

平成18年度 第4回ロード大会 ⇒ JCF選考レースに入っていたが，入れ替えをするような選手は見当たらず指定選手の再編には影響はなかった。

第5回大会を開催するに当たり，高体連選考レース・JCFジュニア選考レースへの推薦を要望・打診はされたが結論は見送った。

（理由）

・高体連強化委員からも積極的な賛成意見はなかった。

・大会レベル・質がどのようなものか分からない。

・特別の地域だけの参加に偏りはないか。

・もし，このクリテで選考しても派遣する大会がない（約1kmのクリテ ⇒ ステージレースとの関係）

・要項の不備（本年は共催が外れている）基本的な高体連内部の合意が何もない。

選考レースとしての十分な条件を満たすレースであるといえないので選考レースとしての推薦はしない。  
基本合意（参加することや選考大会となりうること）が高体連内部で確立し、意欲的な担当者のもと強化委員会としての活動を進めた方が良いのではないかな。

#### ウ ツール・ド・おきなわ（後援事業）

主催者はジュニアカテゴリー実施される大会であるが、実質高体連選手が多いということで、選手15名、監督1名の宿泊費・参加料免除において高体連推薦選手として参加している。主催者からの負担額が変わらなければ有効な使い方は可能である。

本年度も高体連推薦選手・監督を派遣する。  
選考方法は、「全国総体」、「ツール・ド・とうほく」、「全国合宿」の中からそれぞれ5名ずつ選考する。

### ③高体連チーム派遣事業（国内）

#### ア 平成19年度全日本アマチュア選手権大会団体種目の出場について

チームスプリント5名、チームパーシュート6名を選考する

- ・別紙資料参照 候補者発表済み
- ・高体連チーム監督の選任
- ・高体連チームは期間中掌握管理
- ・事前合宿
- ・派遣文書依頼文書
- ・レースジャージは貸与
- ・その他 個人種目で併催されているJOCカップ大会個人種目出場との関係

レーススケジュール、団体種目と個人種目の時間の問題。

19年度、新潟・弥彦で開催。作新学院高校、山本先生に監督を依頼。引率の顧問にも協力を依頼する。

上位3チームに入ると全日本選手権へ参加できる。

※全日本選手権の個人種目は、各都道府県車連からのエントリーになるので注意。

#### イ 平成19年度全日本チーム対抗自転車競技大会

昨年から開催された大会

- ・昨年はインターハイチームスプリント、パーシュート優勝チームを推薦した。

問題がなければ継続して参加し経過をみる。問題点があれば議論して結論を出す。

### （3）平成19年度JCF強化委員会ジュニア育成部会支援コーチの推薦ならびにJCFジュニア選手強化事業について

#### ア JCF強化委員会ジュニア育成部会支援コーチ（以下支援コーチ）はJCFジュニア選手の育成・強化に尽力する。

#### イ 仕事内容等

- ・JCFからの諮問・要請事項について答申を出す。
- ・JCF要請があれば大会・合宿・研修会等に参加し積極的に支援をする
- ・自分の所属・高体連ジュニア外のジュニア選手も対象として掌握・指導する。
- ・当日の参加のみならず、事前準備・計画・予算・決算・報告、立替金、拠出金が生じることもある。



## ウ 選考原案

・新強化委員を全員推薦したい。

・特に辞退がなければ委員は継続される。

## エ 留意点

- ・ J C F 事業の継続性は予算に左右されやすい状況が長く続いている。 J C F スタッフは将来的には事業を企画する上での人的協力・財源確保を積極的に関して働きかけをする必要があるのではないか。
- ・ 資格について。なるべく日体協公認コーチの取得を目指して欲しい。

## オ 平成19年度 J C F ジュニア選手強化事業（事業計画・実施について予算付けされていく）

昨年までの事業を参考にしながら（3月まで未定であったが予算が付きそうである）

国内環境の悪さ、世界の向かう方向性からロード→トラックの順で順位をつける

- 1：ラビティビ（ロード）
- 2：オーストラリア遠征（トラック） オーストラリア選手権
- 3：イタリア遠征（ロード） インターハイ・ツールドとうほくから各3名
- 4：全国合宿（トラック・ロード）
- 5：ロード海外遠征（チョンジュMBCの代替事業）
- 6：その他 国内合宿等

## ・ ツール・ド・とうほくについての要望

第1ステージ（秋田）を個人ロードレースに変更できないか？距離3周90kmか2周60km  
集団ゴールでも正確なタイム差をつけていってはどうか？

## （5）委員会内役割分担について

### ア 種別分類

トラック担当主任（ 百々 ）

委 員（ 山本 ）（ 斑目 ）

ロード担当主任（ 伊藤 ）

委 員（ 徳地 ）（ 堀 ）

### イ 内容別分担

#### 【高体連関連】

①指導書の充実およびアンケート作成・配布・集計（ 百々 ）

〔高体連チーム代表監督〕

②全日本アマチュア選手権大会（ 山本 ）

③全日本選手権 出場権を取れば（ 山本 ）

④日韓対抗（韓国）高体連スタッフ（山本）予備（斑目）

⑤全日本チーム対抗自転車競技大会（百々）

⑥ブロック合宿（JCF委託事業）全国6ブロック総括（堀）

【JOC海外派遣事業】（推薦依頼があれば）前方氏名が責任者

①ツール・ド・ラビティビ ※依頼があれば（伊藤）（徳地）（堀）

②海外研修トラック合宿（百々）（山本）

③全国合宿担当（大野）（伊藤）（百々）

【その他】 会計（大野） 議事録・HP発表用原稿作成（百々）

（6）委員間の連絡・決定および承認・周知徹底方法について

・連絡・意見の交換に電子メールの利用，CCの利用で特別なこと意外は1対1にならないように配慮。  
委員全員へ送信し委員会を開いているイメージ

・打合会議は情報の交換・結論を出す目的で集合，資料はなるべく事前配布し一読されて，疑問・質問  
意見を整理させて会議で発言

（7）常任理事会への報告事項と提案事項

《連絡事項》

（1）次回委員会について開催時期と場所 平成19年 8月